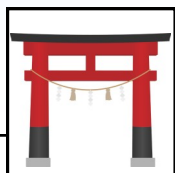


Oh!Smile

2019年1・2月号



日本の神様



八百万神 (やおよろずのかみ)

西洋での神 (God) は唯一絶対であり、全知全能で決して間違いを犯さないとはい存在です。日本の神様は「八百万の神」と呼ばれるように、ありとあらゆるものに宿るとされています。「八」という字は多数を意味しています。一神教が砂漠の宗教であるのに対し、多神教は農耕社会に多く見られます。日本古来の神は一言でいえば、自然現象を人格化したものであり、太陽や月、風や雨や山や海、また大きな木や岩、動植物も人間も、並外れたものは全て神とされてきました。日本の国土は豊かな自然に恵まれ、至るところに神が臨在しているのです。「古事記」や「日本書紀」に登場する神様は、嫉妬したり、悩んだり、時には誤解することもあり、人間らしい存在として面白く物語っています。自然のすべてに神様を見出すという心の豊かさと奥ゆかしさを感じることが出来ます。日本人の価値観や精神の源泉となるものが日本神話にあります。日本の神様を知ることがは伝統を重んじる日本人について知ることに繋がります。



日本人と神様

日本人は生まれると神社にお宮参りし、結婚式には神社や教会で誓いを立て、死んだらお寺で葬式を行いますし、キリスト教でもないのにクリスマスや祝日という、外国人から見れば不思議な習慣をもっています。盆暮れ・正月には墓参りする人が多く、日本人ほど墓を大切にしている民族は世界的に珍しいようです。

日本人には大自然は人間より上位の概念ととらえ、「人は大自然の恵みをいただいて生かされている」と考えています。古来、日本人は大自然を「神」と観念してきました。伊勢の神宮は太陽の神であり、全国に海の神、山の神をはじめ、大自然を象徴する神々が祀られています。日本人の自然観は、たとえば「飯粒を一粒も残さずに食べる」という食事の作法があります。「一粒でも食べ残したら、目がつぶれる」というのが日本人の教育の基本にあります。食事前の「いただきます」というのも同じで、食事自体が神事になっています。食物は神からの贈り物としてとらえています。日本人は太古の昔から、「お天道様が見えますよ!」を心に置き、大自然の恵みに感謝し、大自然を正しく畏れ、大自然と人間の「共生」の道を歩んできました。「神社は神様のいるところ」という感覚は日本人の生活のなかに自然に溶け込んでいます。神社の鳥居や木々を見れば、そこに神様の存在を意識することができます。日本全国の「祭り」は数多くあり、それは神社にお参りいただいた神様へのご奉仕なのです。神様を数える時は一柱(はしら)、二柱といえます。日本の神様は個性派ぞろいで、神社の御利益というのはいかようにも神様の性格や持ち味に基づいていることが多いのです。

日本の神々

○ アマテラス (天照大御神)
伊勢神宮 内宮

日本の総氏神さまでトップの位置におかれています。父のイザナギから高天原(たかまのはら)を任せられ、神々を統括してきました。有名な神話にある「天の岩戸の開き」では、アマテラスの機嫌を伺って、世界に太陽が戻り、闇と災いは治まりました。「存在そのものに感謝」の女神さまです。

○ イザナギ (伊邪那岐命)
イザナミ (伊邪那美命)
滋賀県 多賀神社

言わずと知れた父神さま・母神さまです。神世七世の最後に生まれ、イザナギ・イザナミは兄妹であり、また夫婦でもあります。国産み、神産みにおいて、日本国土を形づくる多数の子をもうけました。

○ コノハナサクヤビメ (木花之佐久弥昆壳)
静岡県 浅間神社

「木の花が咲くように美しい女神」として有名な神さまです。でも、同時に気の強い神さまで、「火の神」とされています。

○ オオヤマツミ (大山津見神)
愛媛県 大山祇神社

山の神であり、また酒の神さまでもあります。娘のコノハナサクヤビメのことで、大人げなく大暴れする愛情深い父神さまです。



○ オオクニヌシ (大国主命)

島根県 出雲大社

「縁結び」の神さままで知られています。皮を剥がれた白兔を見つけ、救ったという「因幡の白兔」の話で有名な神さまです。

○ スサノオ (建速須佐之男命)

埼玉県 氷川神社

水難・火難など、あらゆる「難」を遠ざける神さまです。ヤマタノオロチを退治し、関東を開拓した神さまです。

○ ミズハノメ (弥都波能売神)

福井県 大滝神社

日本の代表的な水の神さまです。雨を降らしたり、止めたりする神さまで、あらゆる命の根源を任されている神さまです。

○ ヒルコ (水蛭子)

兵庫県 西宮神社

日本のえびす神社の総本山とされているのが西宮神社です。戎大神として祀られるようになりました。

○ ククノチ (久久能智神)

兵庫県 公智神社

男性の生命力の様子を表しているとも言われ、精力増強の神様でもあります。ククは木々を意味し、木を神格化したものです。木は天上に住む神さまが地上に降臨する時の依り代として考えられており、それがご神木とされました。

○ スクナビコナ

(少名昆古那神)

東京都 神田神社

穀霊の性格が強く、国造りの協力神です。身体の小さい神さまで、とても頭がよく、オオクニヌシからの信頼も絶大でした。

眷属 (けんぞく)

「眷属」は、神様の使いとされています。

○ 狐



「お稲荷さん」＝「狐さん」と勘違いされている場合がありますが、お稲荷さんは食物の女神さまである「御饌津神(みけつかみ)」です。お稲荷さんの眷属が狐であるゆえんは多々諸説があります。

○ 亀



京都の松尾の神さまがゆるやかな流れでは亀を、急流では鯉の背中に乗ったことから、亀と鯉が神使いとされています。亀は不老長寿を主にサポートしてくれる眷属です。

○ 馬



古来から馬は「神さまの乗り物」とされ、お祭りの際など、「馬を奉納する」という風習があります。

○ 鹿



タケミカヅチが鹿に乗っていたことから縁があるとされています。また、安芸の宮島の神使いも鹿なのです。

○ 鼠



鼠がオオクニヌシを助けたことから、オオクニヌシの使いとされています。

○ 狛犬 (こまいぬ)

神社の門番です。片方が口を開け、片方は口を閉じています。お互いに喋っても、また無口でも良き関係はできず、「円滑な人間関係を表す」とされています。



「神社へ

お参りしよう！」

自然の中に神さまを見出し、手を合わせ、感謝として祈りを捧げる。そこにいつしか鳥居が立ち、本殿が建てられました。神社の始まりです。多くの人が祈りを捧げた神社は、すばらしい気があふれ、身も心も浄化してくれる特別な場所になっています。澄み渡った空気と静かな神社をぜひ訪れましょう。神さまは多くの人が訪れてくれることを願っているそうです。

○ 一礼してから鳥居をくぐります。

左側に立ち、左足から入ります。参道の中央は神さまの通り道であると考えられていますので、中央を避けて進みます。

○ 手水舎(ちようずや)で清めます。

柄杓で両手をすぎ、左手に水を注いで口をすぎます。最後に柄杓を縦にして柄部分を洗い流し、元の場所に戻します。

○ 拝礼の基本は「二拝二拍手一拝」です。

軽く一礼し、邪気を祓うために鈴を鳴らします。お賽銭を入れて、2回お辞儀をします。拍手を打つ際は右手を少し下にずらして2度打ち、その後指先を合わせて祈ります。祈りは「お願い」よりも感謝や決意を伝える機会です。自分の欲ではなく、世の中に有益であれば叶うということになります。



編集後記

神さまが本当におられるのか、なんてことは議論しても仕方ないことです。自然への畏敬、うまく物事が運べた時の感謝、こういふ姿へという願いや祈りなどなど、そこに神さまの存在が確実にあります。日本のたくさんの神さまはそれぞれユニークで、親しみやすさを覚え、身近な存在として私たちのまわりにおられます。その姿は日本そのもののように感じます。目に見えない力というのは確かにあります。人は生まれてから感謝と反省を繰り返して成長します。その光として注いでくれるのが神さまであるように私はとらえています。曲がったことを嫌い、さまざまのものに対して優しく、強い意思で歩んでいる人は、「神さまみたいな人！」と表現しますし、やはりその人の身体からは輝きを発しています。心あるものだけが神さまは導いてくれるだろうし、そのように接していく存在なのでしよう。人間として、生きていく上で大事な姿だと思います。(YASU)

浪速フード株式会社
 〒570-0003
 守口市大日町3-32-11
 TEL 06-4252-7770
 FAX 06-6904-2610
 E-MAIL smile@naniwaf.co.jp
 HP http://www.naniwaf.co.jp
 ※「Oh!smile」への、ご要望・お問合せは上記にご連絡ください。